

ひゅーまんらいつ



無自覚な差別、していませんか・・・？

皆さんは、次の状況をどう思いますか…？

<p>仲のいい男子生徒を見て…</p>  <p>あの2人いつも ラブラブ～♡ ゲイみたい～</p>	<p>カミングアウトしていない、同和地区出身の友人の前で…</p>  <p>ダルいね～</p> <p>また今日のHR、 部落差別のことだって</p> <p>寝るかも…</p>
--	---

何か違和感はありませんか？

その“モヤモヤ”の正体は・・・



マイクロアグレッション

マイクロアグレッションとは、**「小さな」「些細な」**を意味する「マイクロ」と、**「攻撃」**を意味する「アグレッション」を掛け合わせた言葉で、直訳すると**「小さな攻撃」**という意味になり、**「ささいな」「見えにくい」攻撃**を表します。言葉を発する側には**相手を傷つけたり、差別したりする意図はない**ものの、日常的な言動の中で、**特定の人々に対する差別や偏見、無理解などを含む言動**のことを言います。**無自覚であるため、日常的に繰り返されて、その結果、対象となる人を何度も傷つけてしまいます。**

例えば、左の例は、性的マイノリティーの方を**異質なものととらえた、差別的な発言**です。発言者は**「差別をしている」「誰かを傷つけている」という自覚はなく、軽い気持ちで使用**しています。ニュースでも度々、目にする「女性がたくさん入っている会議は時間がかかる」、「LやGが完全に広まったら、子どもは一人も生まれない」などの、一部の政治家による相手を見下した侮辱的な差別発言も同じことです。

また、右の例は、「今ここに同和地区出身の人はいない」ことを前提にした**配慮や気遣いのない発言**です。これも**「差別しよう」という意図はない**かもしれませんが、**「私とは違う」「私には関係ない」「面倒」といった意識が垣間見えます。**

行う人にとっては、その場限りの「些細な」言動かもしれませんが、しかし、マイノリティーの人は**日常的に不特定多数の人から小さな攻撃を受け続け、心理的なダメージを蓄積**していきます。

あなたの**無知、無理解、無関心な言動で、周囲の人を無自覚に傷つけてはいませんか？**



人との関係性において完璧はないし、同じ言葉でも人によって受け取り方は違うので、誰の心の中にもマイクロアグレッションを生む思い込みはある。大切なのは自覚的であること。気を付けていてもやってしまう言動だけれど自覚する。反省する。その繰り返し。

大東文化大学特任教授の渡辺雅之さん

<第2回ホームルーム活動を実施しました>

～2年生～ 「津島町合同研修会報告会」



9月8日、2年生1, 2組合同で、7月末に行われた山口県への研修会の報告会を行いました。参加した生徒の「自分たちが学んだことを仲間へ伝えることが、差別をなくす第一歩だ」という強い思いが伝わった1時間となりました。

この内容は、2月に津島町福祉会館において津島中学校と合同で報告を行う予定です。

○私ははじめ、被差別部落の人々は農民などばかりだと思っていました。今回の報告会を聞いて、医学や薬学に貢献していたり、軍事力の強化に努めたりなど、部落の人々の技術の高さに驚きました。

～1年生～ 「障がい者問題について考えよう」

9月15日、1年生は聴覚に障がいをもつ方への理解を深めるホームルーム活動を行いました。計画・運営を人権委員の3人が積極的に行い、後半の手話体験では、クラスの一人一人が主体的に活動できました。



○今回、自分たちで準備を行うことで、障がい者問題について理解をより深めることができ、クラスみんなに手話に興味も持ってもらうことができました。合理的配慮について改めて考え、誰もが幸せな人生を送れる社会をつくっていきたいです。

あなたの心に響いた言葉は…?

～ハンセン病問題を学ぼう～

9月15日全校集会において長年、元患者の方と親交がある羽浦先生にインタビューを行いました。交流の中で先生が見聞きした、不当な差別の

実情に関するお話には、胸が詰まる思いでした。また、元患者の方々を大切に思い、明るく楽しく交流を続けられている先生の生き方に勇気をもらえた時間でした。

ご協力ありがとうございました。



～つなぐ! アンネのバラプロジェクト!～



文化祭のステージ発表のアンネのバラ。これまで津島高校・分校で過ごした先輩や先生方の軌跡や証として、また、アンネ・フランクから受け継いだ平和のバトンとして、大切に引き継いでいきましょう。